

人勢政転逆とスト波の自身



86. 8. 31
No. 2336

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二二二七二〇七

早くもさげ出された敵のペテンと破綻点
情勢は動いた！勝利への機運は見えている！

大胆な飛躍を、秋の正念場決戦へ必勝の陣形ぞくぞく

すべての組合員のみなさん！

八月二三―二四日、千葉市なのはな荘で開催された青年部第九回定期委員会は「青年部は第三波ストのけん引車になろう」を合言葉に大成功をかちとった。

いよいよ正念場、この九―十月は国鉄労働者の未来を決する重大な決戦だ。ここにおいて力および負けてしまった等ということは断じて許されない。青年部は、この歴史的決戦の真ただ中で行われる第十一回動労千葉定期大会で、第三波ストライキを全代議員、全組合員の声としてうちだすことを心の底から訴える。

勝利するために、なりふりかまわず全力で起ち上がるろ！ 青年部はその先頭に起つ！

吹きだす分割・民営化の矛盾

われわれは絶対に勝てる。それは、分割・民営化が矛盾だらけのデマとペテンでぬり固められた代物であることだ。

旧国鉄を維持するためには毎年二兆円、しかも十年間にわたって毎年補助金をださなければならぬ。こんなフザケた話があるだろうか。これだったら「分割・民営化などしない方がまだましだ」という話になるのはあたりまえだ。分割・民営化は断じて「国鉄改革」などでは決してない。中曽根・杉浦はデマをデマとしておし通すために国鉄労働運動をぶつつぶす。これが最大の狙いだ！

拡がる当局・革マル・鉄労の矛盾

革マル松崎は、ついに総評脱退まで行った。中曽根・杉浦の前に完全にひれふし、完全な奴隷となったのだ。しかし、このことは革マルが全労働者の敵であることを革マル自身が自ら暴露したのだ。また鉄労は、当局に革マルを切ってくれと要求し、当局は当局で革マルを切ることを決断した。労働者の未来をふみにじり、権力に骨のズイまでしゃぶりつくさ

れて利用価値がなくなればすてられる。これが裏切り者の末路だ。

革マル追放・一掃はまさしく天の声、革マルがいなければ当局はこれだけ攻撃はできなかつた。分割・民営化の実践部隊である革マルを追放・一掃することが勝利のカギだ。

二波にわたるストライキが全国を席卷している

物販・映画上映を通じて「国鉄労働者はがんばってほしい」ことが全国の声であることがわかった。みんな国鉄決戦をかたずをのんでみている。分割・民営化との攻防は国鉄労働者だけの問題ではない。日本労働者階級全体にかけられた攻撃なのだ。

われわれは絶対に勝てる。動労千葉は日本労働者階級の希望の星だ。勝つためには何でもやろう。国労決起・動労決起を必ずかちとろう！ 9・7集会の成功から9・14三里塚へ独自の国会闘争をかちとれ。ここで決定的なのは第十回大会決定の「数波にわたるスト方針」を貫徹し、第三波ストをかちとることだ！ 断じて負けてなるものか、死力をつくして起ちあがれ！